



毎週月曜日発行
物流産業新聞社

購読料3か月10,500円 振替口座 00950-4-106153
昭和62年11月14日第三種郵便物認可 ©物流産業新聞社 2009
I S O 9001:2000認証取得 審査登録機関:LRQA

東京本社 東京都新宿区舟町7(ロクサンビル4F) ☎03(3226)9371(代)
中部本社 名古屋市熱田区尾頭町2-2 ☎052(681)2230(代)
大阪本社 大阪市東住吉区山坂4-15-14 ☎06(6608)0501(代)

全国10拠点をネットワーク

ワンコイン・エコ推進

途上国にワクチンと衣類を

引越事業者と提携へ



事業の方針を語る山田正人社長

日本リユースシステム

引越など不要になった衣類を500円で回収し、開発途上国に「ワクチンとセット」届けられる。日本リユースシステム(山田正人社長、東京都港区)は、リサイクルの新たな形として「ワンコイン・エコ」を広めようとしている。NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」とタイアップしている同事業は、すでにリサイクルショップでは広く普及。今後は引越事業者との提携を進めていく構えという。山田社長に話を聞いた。

引越など不要になった衣類を500円で回収し、開発途上国に「ワクチンとセット」届けられる。日本リユースシステム(山田正人社長、東京都港区)は、リサイクルの新たな形として「ワンコイン・エコ」を広めようとしている。NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」とタイアップしている同事業は、すでにリサイクルショップでは広く普及。今後は引越事業者との提携を進めていく構えという。山田社長に話を聞いた。

事業構想のきっかけについて、同社長は「日本で流通している質の高い衣類は、古着であっても海外での需要が高い。しかし、これまででは採算の合う形で輸出する仕組みがなかった」と振り返る。そこで編み出したのが、「(不用品類の)排出者に費用を負担してもらい、90センチで500円(ワンコイン)払ってもらい、それを物流コストとワクチン5本分に充てる。

まずリサイクルショップで開始された同事業。同社長は「国内流通向けに店舗で引き取れるのは約1〜2割。残りは持ち帰ってもらうことになるが、一度引き取りを拒否されたお客さんはもうやってくる。シヨックにしてみれば、次の『仕入れ』の機会を損失することにもなる」と指摘。しかし同事業を導入することで、「持ち帰る手間も省け、ワクチン提供という『社会貢献』をしている満足も味わえる」と、リサイクルショップの課題が解決されることを説明する。



衣類とワクチンが途上国の子どもを救う

また500円という負担については、「ゴミに出さずにシヨックに持ち込むのは、『引越した』。リサイクルシヨックと同様、引越「不用品類が大量に排出されるシーン」として、同社長が次に普及をめざすのが「引越事業者が衣類を回収」。

「不用品類が大量に排出されるシーン」として、同社長が次に普及をめざすのが「引越事業者が衣類を回収」。現在、同社は参加引越事業者を募集している。引越事業者のメリットとして、同社長は「(不用品類を)産廃に引き取ってもらうコストを削減できる」とし、さらに「顧客に対する企業イメージ向上にもつながる。また、『ワンコイン・エコ』に賛同しているだけでアピールになり、仮に

業者がユーザーから1袋500円で衣類を回収。その後、4トトラック(2500〜3000袋、15〜20立方メートル)で同社の倉庫に持ち込むと、約3万7500〜4万5000円の運賃が引越事業者を支払われる。「車両やドライバーが空いている時間を活用して持ってきてもらえればロスもない」と同社長。なお顧客から預かった回収料金は別途指定の口座に入金する。

現在、同社は参加引越事業者を募集している。引越事業者のメリットとして、同社長は「(不用品類を)産廃に引き取ってもらうコストを削減できる」とし、さらに「顧客に対する企業イメージ向上にもつながる。また、『ワンコイン・エコ』に賛同しているだけでアピールになり、仮に

利用者がいなくても損はないはず」と説明する。対象エリアは現在のところ関東全域のみだが、「近々、東北と関西にも倉庫を開設する予定」と、さらに拡大していく構えだ。同社長は「新しい『捨て方』の提案」として、さらなる浸透をめざす。同社HPは <http://www.mscorp.jp/> (村上千秋)